

## 「日本人の勝算」デービット・アトキンソン

著者は人類史上いまだかつてない急激なスピードと規模で人口減少と高齢化が進んでいる日本におけるパラダイムシフトが起こっているという現状を踏まえ、一方で日本人はこのターニングポイントに真の意味で気づけていないと警鐘を鳴らしている。本書では日本の政策が極めて近視眼的なものであり、より大胆な政策を打って出るべきであると主張している。特にここまで人口減少が予測されている国は歴史上で見ても初なので、過去から学び対策することが難しいという。

だからこそ、この大きな問題を細かい要素に振り分け、各国のエコノミストが研究している論文を精査した先にある示唆や結果を取り込むことが現代における有効な対策手段の一つであるとしていた所がとてもユニークであると感じた。

特に印象的だった章が企業規模について述べられていた章だった。というのもこの著者は「中小企業淘汰論」を提唱しており、日本における大多数の中小企業は再編、廃業させ、グループ化、大企業化を目指していくべきだと書かれていたからである。一方で考えさせられたのは「中小企業の寿命を盲目的に伸ばすことを考えるのではなく、今後の時代性に沿った企業選定を行うことも重要である」と感じた。